

# 随筆(エッセイ)を味わい、読書に親しむ態度を育てたい。

11月16日(水)、山川志穂先生が授業を公開しました(2年5組)。本時は、向田邦子さんの随筆「字のない葉書」のクライマックスシーンで、「父への想い」を捉え、生徒が筆者の気持ちに寄り添い、考えをまとめていく時間となりました。

志穂先生の授業で大変参考になったのは単元デザインです。図1に示されているように、志穂先生の単元デザインを問いサポP.18と照らし合わせてみると見事に一致(^)/

単元や題材のまとまりを設定し、指導内容のつながりを意識しながら、効果的に学習を展開する授業デザインがなされていたと思います。

以下は、授業を参観したバディの唯先生からの感想です。

- ① 生徒は、第2時、第3時で読み取った、筆者の父親への気持ちや父親の人柄を、手紙という形式で表現できるようになった。また、筆者の気持ちを想像しながら筆者になりきって手紙を書くため、気持ちを想像することができるようになった。
- ② 本時は、どちらかという自力解決の授業で、生徒は手紙を書くという言語活動を通して、自身が読み取った父親の人柄や、筆者の気持ちを表現していた。次時は、他者と交流をする活動を取り入れることで、生徒が描写の違いを比較したり、考えを広げたりし、言葉の見方・考え方を価値付ける姿が期待できそうである。

随筆

## 字のない葉書 向田邦子

めあて: 邦子さんは父に対してどう想っているのか。手紙を通して表現しよう。

① 父への想いを具体化し、ノートに書き留めておこう。  
※これまでの好き嫌いメーカーのそばに書き留めよう。(5分)

② 学習末課題に取り組もう。(25分)

③ 書いた手紙を読み合おう。(5分)

④ 邦子さんが想う、「父に対する想い」を書くこと。  
「父の行動を理由にする」こと。  
「父の行動を理由にする」こと。  
「父の行動を理由にする」こと。

⑤ 妹が学童疎開から帰ってきた年から、三十一年後に手紙を書いている設定とする。  
前半部・後半部の両方の話題に必ず触れる。  
「あの手紙」△△を準備したよ。  
「あの手紙」△△を準備したよ。



### 「問い」をもたせるために単元をデザインする (例 読むこと)

学習過程	「問い」をもつ	「問い」を解決する・深める			新たな「問い」へ
	学習目的の理解・設定 (見通し)	構造と内容の把握	精査・解釈	考えの形成	共有
	<p>1</p> <p>・本文を読む。 ・時代背景を知る。 ・文全体の構成を捉え、前半と後半でどんな話題を挙げてくるのかを捉える。</p>	<p>2</p> <p>好きな内容を探さよう① 前半部からみる父の人柄。 好き嫌いメーカーに取り組む。</p>	<p>3</p> <p>好きな内容を探さよう② 後半部から見る父の人柄。 好き嫌いメーカーに取り組む。</p>	<p>4</p> <p>学習末課題 筆者は父に対してどんな想いを抱いているか、書きみよう。 「父の手紙を書く。」</p>	

志穂先生の単元計画

「認識から思考へ」「思考から表現へ」言語能力を発揮する

本時

「見方・考え方」：〈5年例〉説明的文章の表現・内容に対する考えを広げたり深めたりするために、構成や言葉の特徴に着目し、要旨や筆者の主張を捉え、自分の考えを再構築し言葉で表現する。

文部科学省：「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(国語科における学習過程のイメージ)」参照

図1 本単元×生徒が「問い」をもち言語能力を発揮する「単元づくり」を(問いサポP.18)